

平成28（2016）年度入学者

専門教育科目

科目名	健康科学		科目ナンバリング	HOAA12004	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）			

《授業の概要》

健康な状態を維持するために、普段からの健康的な生活が重要である。日常生活が健康に及ぼす影響や各年代において健康を保持増進させるのに重要な因子を理解し将来に役立てることを目的とする。運動、食生活、睡眠、休養などの日常生活と健康との関連や各年代における健康に影響を及ぼす生理的な現象等を科学的な理解を深める講義を行う。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 運動、栄養などの生活習慣が健康に及ぼす影響を理解する。
- 2 各年代において健康を維持する因子を理解する。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること。
- 3 日頃から、健康状態について関心を持つよう心掛けること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験 85%、小テスト15%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう気をつけること。第1-8週、15週は衛生管理者（第一種）免許に必要なテーマである。

小テスト終了後、解説を行い、閲覧可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本人の健康状態	日本人の死亡統計および疾患別患者数統計から、日本人の主な死亡原因は何か、どんな疾患の患者数が多いかが理解できる。
2	日本人の生活習慣	国民健康栄養調査結果から、日本人の生活習慣（運動、食事、休養、喫煙、飲酒等）の現状が理解できる。
3	運動と健康	運動とがん、糖尿病、循環器疾患との関連及び「健康づくりのための運動指針2006」について説明できる。
4	食事と健康	三大栄養素の単位重量当たりのエネルギー、エネルギー代謝（特に基礎代謝）、食事摂取基準量について説明できる。
5	睡眠・休養と健康	睡眠時間と健康の関連、レム睡眠とノンレム睡眠、睡眠障害の分類、不眠症の分類及び原因について説明できる。
6	喫煙と健康	喫煙による健康被害（能動喫煙および受動喫煙それぞれ）やタバコに含まれる有害物質について説明できる。
7	飲酒と健康	飲酒が及ぼす健康への効用及び悪影響について説明できる。さらに、適度な飲酒量や胎児性アルコール症候群を理解する。
8	ストレス	ストレス学説、ストレスの発生メカニズム（自律神経を中心とした）、ストレスの評価法について説明できる。
9	咀嚼と健康	咀嚼が脳の認知機能や肥満に及ぼす影響やその生理学的なメカニズムについて説明できる。
10	乳幼児期の健康	乳幼児期の腸内細菌叢の変化、出生直後の免疫、脳の発達、乳幼児期の睡眠、発育と発達の相違について説明できる。
11	少年期の健康	少年期の発育・発達の特徴（特に脳の発達）、遊びの必要性、ゴールデンエイジについて説明できる。
12	妊婦の健康	妊婦における運動の必要性、妊婦に適した運動、妊婦の喫煙や飲酒による胎児への影響について説明できる。
13	青・壮年期の健康	青年期の健康問題として無理なダイエットや朝食欠食による体への悪影響、壮年期の健康問題として内臓肥満・メタボリックシンドロームについて説明できる。
14	老年期の健康	老化の定義、老化現象、老化による筋肉の減少の仕方及び筋トレ、痴呆および痴呆予防について説明できる。
15	労働と健康	職業病の種類やその原因、職業病と作業関連疾患の相違、これらの疾患に対する対策を理解する。

科目名	健康統計の基礎		科目ナンバリング	HOAA12005	
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

コンピュータを利用して、健康科学を学ぶ上で必要となる、統計手法の基礎を身につけることを目指す。具体的には、調査・実験から得られた資料（データ）を整理し、資料の特徴をあらわす数値を求めたり、確率を利用して資料のもととなる集団の特徴や傾向を推測する手法について学ぶ。また、実際の統計処理で使用される、表計算ソフトを利用した演習を通して、理論だけでなく実際の処理のながれを理解する。

《授業の到達目標》

- 基礎統計量を計算して、データの特徴を説明できる。
- 基本的な統計手法を用いて、データを解析し説明できる。
- 表計算ソフトを使用して、資料の整理や基本的な統計解析ができる。

《成績評価の方法》

課題やレポートなどの提出物（40%）、小テスト（10%）、定期試験（50%）で評価する。  
 なお、提出物や小テストにはコメントを付して返却するとともに、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2013)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』東京図書。

《参考図書》

- 石村貞夫(2006)『入門はじめての統計解析』東京書籍。
- 菅民郎(2013)『Excelで学ぶ統計解析入門 -Excel2013/2010対応版』オーム社。
- 涌井良幸・涌井貞美(2010)『統計解析がわかる（ファーストブック）』技術評論社。

《授業時間外学習》

- 予習では、事前に教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、基礎統計量や統計処理については、表計算ソフトを使う手順を確認しておくこと。
- 復習では、定期試験に向けて、公式や統計手法を扱えるように練習しておくこと。また、表計算ソフトを使用する際に、関数を使わずに公式による計算ができるようにしておくこと。

《備考》

主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。とくに表計算ソフトが苦手な学生は、自主的に練習しておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	表計算ソフトの利用(1)	データの入力と修正、表の作成と編集
3	表計算ソフトの利用(2)	データの検索、並び替え、関数の利用
4	1変数のグラフ表現	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ、レーダーチャート
5	1変数の統計量	代表値（平均値、最大値、最小値など）、散布度（分散、標準偏差など）
6	2変数のグラフ表現と統計量	散布図の作成、相関係数
7	回帰直線による予測	回帰直線
8	時系列データの推移	移動平均
9	度数分布表とヒストグラム	度数分布表の作成、ヒストグラムの作成
10	確率分布とその数表	標準正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布
11	区間推定	母平均の区間推定、母比率の区間推定
12	仮説検定の基礎(1)	2つの母平均の差の検定
13	仮説検定の基礎(2)	対応のある母平均の差の検定
14	クロス集計と仮説検定	クロス集計表、独立性の検定
15	まとめ	全体の学習のふり返り

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	微生物学	科目ナンバリング	HOXA22008		
担当者氏名	土井 裕司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）				

《授業の概要》

生命科学の知見は、大部分が微生物の研究から得られたものである。そこで、微生物にはどのようなものがあるか、微生物はどのような働きをしているかを理解することから授業を展開していく。私たちの体には恒常性を維持し、疾病を制御する巧妙な能力が備わっている。他方、微生物の中には人の健康を損なうものがある。本科目では、微生物学の基礎と生体が病原体と戦う仕組みについて理解を深める。

《授業の到達目標》

① 微生物の種類や分類を説明できる。 ② 主要な病原微生物による感染症の病態と特徴を理解・説明できる。 ③ 主な感染症の予防対策を提言できる。 ④ 病原体と戦う免疫現象を理解・説明できる。

《成績評価の方法》

① 定期試験 70%  
 ② レポート提出 20%  
 ③ 授業への積極的な取り組み 10%  
 わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

林 修 編著「新版 微生物と免疫」建帛社

《参考図書》

田爪 正氣 他4名著「新・感染と微生物の教科書」研成社、  
 西條政幸著「新訂版 微生物学」サイオ出版、今西二郎著「免疫学の入門」金芳堂

《授業時間外学習》

① 予習： あらかじめテキストに目を通し、どのような授業が展開されるかを予想してみる。  
 ② 復習： 授業内容を再確認するため、参考図書等を参考に自分で調べ、整理してまとめる。

《備考》

自分の健康管理に関する知識を身につけるよう心がける。話題になっている微生物感染症に関心をもつよう心がける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	微生物とは	微生物へのいざない。「微生物」とは、どのようなものであるかを理解する。
2	微生物学の概要と歴史	顕微鏡の発明と微生物の発見といった微生物に関連する事柄を知り、微生物自然発生説が否定されていることを理解する。腐敗と発酵の違いを理解する。
3	微生物の特徴と分類	生物界の分類と生物界における微生物の位置、ならびに微生物の分類を理解する。
4	細菌学総論	細菌の概要、細菌の代謝と分類、細菌の分類、細菌の培養等、細菌に関する基礎事項を理解する。
5	ウイルス類総論	ウイルスの形態と構造、主なウイルスの分類、ウイルスの増殖と培養等、ウイルスに関する基礎事項を理解する。
6	真菌学総論	真菌の形態、真菌の生活環と分類、真菌による主な疾患と原因真菌等、真菌に関する基礎事項を理解する。
7	原虫学総論	原虫の形態と分類、原虫の増殖、主な病原原虫と生活環等、原虫に関する基礎事項を理解する。
8	生活に身近な微生物	腸内フローラ、プロバイオティクスとプレバイオティクス、微生物を利用した食品、カビの害など、生活の中で微生物が関与している事項を理解する。
9	中間でのまとめとレポート作成	第1回から第8回までのまとめ、重要ポイントについて理解を深める。学習事項の理解を助けるため、与えられた課題に対するレポートを作成する。
10	感染 一発症と予防一	感染と発症、感染症法、感染における宿主と微生物の相互関係、感染源と感染経路等、感染に関する事項を理解する。
11	免疫学総論	免疫とは、免疫を担当する器官と細胞、免疫応答等、免疫に関する基礎事項を理解する。
12	アレルギーと自己免疫疾患	過敏症反応の分類と機序、主な自己免疫疾患等、アレルギーに関する基礎事項を理解する。
13	栄養と免疫	栄養摂取と免疫、食品の生体調節機能等、食生活と健康の維持に関する事項を理解する。
14	感染と生体防御	感染初期に機能する自己免疫、感染防御効果の発現等について理解する。
15	まとめ	授業全般での重要なポイントについての理解を深める。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	生化学	科目ナンバリング	HOXA22009
担当者氏名	長尾 憲樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）		

《授業の概要》

生命とは、物質代謝によって自己の構造を維持し、積極的に行動しているものと定義されている。生化学は、端的にいえば生命の営みを化学的に理解する学問である。生化学の基礎知識が人間の運動と健康を考える上で必要不可欠である。

《テキスト》

配布資料を使用する。

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

生化学の基礎知識を習得し、できうる限りの実体感を得る。

《授業時間外学習》

これまで学習してきた理科に関する復習を行う。

《成績評価の方法》

定期試験70%  
レポート30%  
毎回提出する出席兼用のペーパーに、質問に対する解答を記述します。その理解度を考えて、次の講義に必ず反映させます。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生命とは？	生命の起源についての学説を概観する。
2	生化学の始まり	発酵現象の歴史的意義
3	解糖系 I	微生物・植物について
4	解糖系 II	動物・人間について
5	生体のエネルギー	ATPの発見
6	脂質	脂質の種類と構成要素
7	TCAサイクル	ミトコンドリア内の化学反応
8	電子伝達系	ATPのカウントについて
9	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の種類とタンパク質の多様性
10	乳酸	乳酸の考え方
11	細胞	40兆の細胞とネットワーク
12	遺伝情報	ゲノム解析から
13	エピジェネティクス	環境要因と遺伝
14	運動と生化学	どのような点に興味を持ちますか。
15	まとめ	これまでの学習を振り返ってまとめる。

《専門教育科目 専門基礎科目群》

科目名	公衆衛生学	科目ナンバリング	HOAC22014
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

公衆衛生学は、人々が生活する環境において健康の障害となる要因を明らかにし、社会の組織的な活動により集団の疾病予防と健康の保持・増進を目指す学問である。衛生統計や疫学手法などを用い、宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解し、集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶことが求められる。

《テキスト》

社会・環境と健康 公衆衛生学 柳川洋・箕輪眞澄 編著

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（厚生統計協会）  
各单元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 主な統計指標、疫学的研究を理解する。
- 2 健康増進や各ライフステージでの保健対策を理解する。
- 3 生活習慣病の疫学および予防を理解する。

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること。
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること。
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること。

《成績評価の方法》

- 1 定期試験 85%、小テスト15%の割合で評価する。
- 2 私語等講義の妨害となる行為や風紀を乱す行為を行った者は、出席取り消しもしくは減点の対象となる。

《備考》

本科目は教員免許必須科目であるため、授業の障害となったり、風紀を乱すことがなく、可能な限り出席できる学生が履修登録することが望ましい。

小テスト終了後、解説を行い、閲覧を可能とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念、公衆衛生の概念と歴史	健康や公衆衛生が持つ意味合い、そして公衆衛生学カバーする領域、公衆衛生学が発達してきた歴史的な経緯。
2	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容。
3	保健統計指標	出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数等の保健統計指標、罹患率と有病者率との相違、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標。
4	疫学の概念・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロール。
5	疫学の方法・疫学の指標	記述疫学、生態学的研究、コホート調査の手法、特徴、利点欠点を説明でき、相対危険度。
6	疾病の予防と健康づくり	疾病予防の段階（一次予防、二次予防、三次予防）、健康づくりの定義及び健康日本21、健康増進法。
7	地域保健	保健衛生行政及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違。
8	母子保健	母子保健の目的、水準、母子保健施策、子育て支援。
9	学校保健	学校教育と保健管理、健康診断、学校環境づくり、保健学習、学校給食。
10	産業保健	労働災害・事故、職業病、安全衛生対策、職場における健康診断と健康増進。
11	成人保健	老人保健法から高齢者の医療の確保に関する法律への変遷。
12	悪性新生物の疫学	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防。
13	循環器疾患の疫学	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法。
14	糖尿病の疫学	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法。
15	保健・医療・福祉	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、病院機能評価。

科目名	健康心理学		科目ナンバリング	HOAB22017	
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）			

《授業の概要》

心理学としては異色の「身体的な健康」と「精神的な健康」とを根元的な結びつきの中で捉えようとしていることと、障害や疾病状態ではなく健康を中心課題としているところに特徴があります。心理的要因の心身の健康への影響を理解し、自他の健康アプローチに関心を払い、運動指導や生活習慣の改善・行動変容に生かす態度・能力の育成を目指します。授業では、健康への認知行動的アプローチに基づく実際を学びます。

《授業の到達目標》

- 健康心理学の領域を理解し、説明できる。
- 健康心理学の基礎となる心理学の概念を理解し、代表的な理論について説明ができる。
- 健康なパーソナリティについて、考えを述べるができる。
- 健康習慣や健康行動について理解しまた、その指導ができる。

《成績評価の方法》

レポート課題に対する取り組みの成果 20%、  
 定期試験 60%、  
 中間におこなう確認テスト 20%  
 レポートは、コメントを付して返却する。中間テストについては、採点后、要点の解説をおこない知識の定着を図る。

《テキスト》

『新版 健康心理学』 野口京子著 金子書房

《参考図書》

『現代心理学シリーズ 健康心理学』島井哲志編 培風館他  
 授業の中で適宜紹介

《授業時間外学習》

健康生活を実践し、健康習慣に関して、自分の意見をまとめておく。テキストを通読し、健康心理学の領域を理解する。課題のレポート作成には、必ず文献を探す。

《備考》

健康運動指導士や健康運動実践指導者の資格を目指す人はいうまでもなく、意欲的な参加と主体的な学習態度を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	健康心理学の歴史と他学問領域との関係
2	健康心理学の基礎理論 (1)	精神分析、学習理論、行動理論
3	健康心理学の基礎理論 (2)	発達理論、認知理論、人間主義理論
4	健康行動の理解	健康行動とは 予防と治療とリハビリ
5	パーソナリティと健康行動 (1)	健康なパーソナリティ
6	パーソナリティと健康行動 (2)	疾病とパーソナリティ
7	生活習慣と健康	健康な生活習慣 生活習慣病の予防と健康行動
8	健康への認知行動的アプローチ (1)	認知の行動の関わり、認知行動療法
9	健康への認知行動的アプローチ (2)	社会的要因と個人的要因 健康関連行動について
10	ヘルスケアシステム	健康心理アセスメント
11	健康におけるソーシャルサポートの働き	ソーシャルサポートの測定
12	健康心理カウンセリング	基礎理論 理性感情行動療法、交流分析、自律訓練法
13	健康教育活動	禁煙、薬物防止、食行動の変容などについて
14	行動変容や習慣改善への試み	集団力学・グループダイナミクス、個人指導
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

科目名	教育特論 I	科目ナンバリング	H0CC12019
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）</li> <li>◎ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> </ul>		

《授業の概要》

キャリア（生涯にわたっての仕事や社会とのかかわり方）への明確な課題意識を持ち、進路の実現に向けて主体的に能力を開発することは、社会的・職業的に自立する上で重要である。そこで、アクティブ・ラーニングを中心とする活動を通じて、自己のキャリア実現への目標を明確にし、目標達成のための課題に取り組む力を養うことを目指す。授業はオムニバス形式（専任教員が入れ替わりで担当）である。

《授業の到達目標》

- 自分の特性や働き方に対する考え方を理解し、社会の中で自分が果たす役割について説明できる。
- 自分の進路に対する具体的な目標を設定し、その実現に向けての個人的課題を説明できる。
- 自分の進路実現における課題を克服するための計画を具体的に立案できる。

《成績評価の方法》

ワークシートやレポート等の提出物（40%）、グループワークでの成果発表（40%）、グループワークでの相互評価と貢献度（20%）で評価する。  
 なお、提出物にはコメントを付して返却し、成果発表には担当教員から講評を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、スケジュールの説明などを説明する。
2	キャリアとは(1)	ライフデザインの観点からキャリアとは何かについて考える。また、職業レディネス・テストの体験とその結果から、職業適性における職務分析について考える。
3	キャリアとは(2)	キャリア実現に向けたステップとスケジュールを確認する。また、職業レディネス・テストの体験とその結果から、職業適性における作業者個人の特性について考える。
4	キャリア形成の現状と課題(1)	健康に関わる分野で活躍する社会人による講演から、幅広い観点でキャリア形成を考える。
5	キャリア形成の現状と課題(2)	卒業生の体験談から、グループ活動として、キャリア形成と職業観について考える。
6	キャリア形成の現状と課題(3)	グループでまとめたキャリア形成と職業観を発表し、相互評価する。
7	学科での学びと社会との関わり(1)	グループ活動として、健康に関わる進路を提案する。
8	学科での学びと社会との関わり(2)	グループ活動として、自分たちの気質や将来への考え、大学で学んだことをふり返り、それらに関わる新たな進路を提案する。
9	学科での学びと社会との関わり(3)	グループ活動として、提案する新たな進路をより具体的に発表準備をする。
10	学科での学びと社会との関わり(4)	グループで提案する新たな進路をより発表し、相互評価をする。
11	健康システム学科生のキャリアデザイン(1)	自分のこれまでの学習成果や社会経験をふり返り、将来のキャリア実現のための計画を立てる。
12	健康システム学科生のキャリアデザイン(2)	キャリア実現のための計画を相互にアドバイスし合い、より具体的な計画に練り直す。
13	健康システム学科生のキャリアデザイン(3)	自分たち自身を客観視するために、グループ活動として、健康システム学科の学生のキャリアを設計する。
14	健康システム学科生のキャリアデザイン(4)	グループで設計した健康システム学科の学生のキャリアを発表し、相互評価をする。
15	将来の進路の実現に向けて／まとめ	授業全体についてふり返り、将来のキャリア実現に向けた課題を考える。

《テキスト》

オムニバス形式の授業であるため、適宜授業の中でプリントを配布する。

《参考図書》

オムニバス形式の授業であるため、参考となる文献や資料は、適宜授業の中で紹介する。

《授業時間外学習》

あらかじめ、自分の進路に必要な知識や能力を把握して、自主的に情報収集や習得を進めておくこと。  
 授業後は、活動結果や配布資料等をもとに学習した成果をふり返っておくこと。また、グループ活動において、授業時間外に情報交換や議論するように努めて、授業時間中に成果発表ができるようにしておくこと。

《備考》

オムニバス形式の授業であるため、授業計画は目安です。担当教員の都合により進捗が異なることがあります。また、アクティブラーニング・ゾーンにて授業を実施する場合もあります。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	運動生理学		科目ナンバリング	H1BC22003	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

身体運動が人体機能にどのような応答をもたらすのか、また継続して身体活動を行った場合にはどのような適応を示すのかなど、その生理学的な機序を学習していく。講義で学習する主な点は、(1) 運動と健康との関係について (2) 人が運動する場合の生理・生化学的機構について (3) 運動による人体機能の応答・適応についてであり、これらの内容についてそれぞれ詳細に講述していく。

《授業の到達目標》

この講義は、運動やスポーツなどの身体活動にともなう人体の生理機能の変化やその機序についての知識を身につけることができるとともに、運動することにおいて大切な基礎的知識について説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果（80%）と毎講義ごとに行う確認テスト（10%）、事前学習課題（10%）によって評価する。100点満点で60点以上を合格とする。授業内で実施する確認テストは、時間内に解答解説する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康と運動	健康と体力、運動の効果について
2	運動適応のメカニズム (1)	運動時のエネルギー発生仕組みについて理解する（動作による人体の機能の変化を含む）
3	運動適応のメカニズム (2)	有酸素能力と無酸素性作業閾値について理解する
4	運動適応のメカニズム (3)	運動と呼吸について理解する
5	運動適応のメカニズム (4)	運動と循環について理解する
6	運動適応のメカニズム (5)	運動と筋・骨格系①について理解する
7	運動適応のメカニズム (6)	運動と筋・骨格系②について理解する
8	運動適応のメカニズム (7)	運動と神経系①について理解する
9	運動適応のメカニズム (8)	運動と神経系②について理解する
10	運動適応のメカニズム (9)	運動と自律神経・内分泌系について理解する
11	運動適応のメカニズム (10)	運動と体温調節について理解する
12	運動適応のメカニズム (11)	運動と環境（内部・外部）の関係について理解する（環境条件と人体の機能を含む）
13	運動適応のメカニズム (12)	発育発達期における運動の役割について理解する
14	運動適応のメカニズム (13)	運動強度・量の表し方について理解する
15	健康のための運動処方	様々な環境下での有酸素性運動の在り方について説明できる（疲労及びその予防を含む）

《テキスト》

「現代栄養科学シリーズ18 運動生理学」池上晴夫著（朝倉書店）2003年

《参考図書》

「新運動生理学（上巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年、「新運動生理学（下巻）」宮村実晴編（真興交易（株）医書出版部）2001年、「身体活動と不活動の健康影響」郡司篤晃、川久保清、鈴木洋児編（第一出版）1998年、「運動生理学」Astrand, PO and Rodahil, K.（大修館書店）1990年

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくこと。毎講義ごとに前回講義の復習を兼ねて確認テストを実施しますので、各自で復習学習しておくこと。また、事前の課題を学習しておくこと。

《備考》

第2、12、15週は第1種衛生管理者免許に関する内容を含む。

科目名	運動生理学演習		科目ナンバリング	H1CX22004	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）</li> <li>○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）</li> </ul>				

《授業の概要》

身体運動時の生理反応の基礎と本質を演習を通じて学習していくとともに、運動中の生理現象を詳細に記録や観察し、測定時に得られたデータを解析することによって身体の生理学的な適応反応の意義を理解できるようにする。主なテーマとして、(1)呼吸循環機能に及ぼす身体活動の影響(2)筋力や筋持久力に及ぼす身体活動の影響(3)運動負荷試験の実際と解釈について、評価していく。

《授業の到達目標》

運動生理学演習では、2年次 I 期開講の運動生理学の講義で学んだ知識について実習を通して再確認していくとともに、運動生理学の分野において用いられる基礎的な測定方法を習得することができる。また演習を通じて、身体活動時にみられる人体機能の複雑で巧妙な適応機能について説明できる。

《成績評価の方法》

演習中のレポート課題（80%）と演習の参加意欲（作業シート（20%））により評価する。なお、提出期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。レポート課題については、コメントをつけて返却する。

《テキスト》

本演習用の手引きを配付し、それに応じて演習を進めて行く。また、必要に応じて関連するプリントを配布する。

《参考図書》

「運動負荷心電図 第2版—その方法と読み方」川久保清著（医学書院）2009年、「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法」西園秀嗣著（大修館書店）2004年、「改訂最大酸素摂取量の科学」山地啓司著（杏林書院）2001年、「運動処方指針—運動負荷試験と運動プログラム—」アメリカスポーツ医学会編（南江堂）2001年

《授業時間外学習》

演習で得られた測定記録を整理しながら、レポート作成のための資料を収集しておくこと。また、参考図書などを参考に生理機能の仕組みについて理解しておくこと。

《備考》

身体活動を評価するための実験を行いますので、演習にふさわしい服装（靴も含む）で参加すること。演習活動を妨げるような服装の場合には本演習を受講する必要はない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	演習の進め方について
2	体組成の評価	様々な機器や方法を用いての体組成計測法について学び、あらゆる場面において体組成測定が出来るようになる
3	心肺運動負荷試験(1)	有酸素性作業能力の測定方法と心肺運動負荷試験による間接法と直説法について理解する
4	心肺運動負荷試験(2)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
5	心肺運動負荷試験(3)	直接法による酸素摂取量の測定が出来るようになる
6	運動中の呼吸循環機能の評価(1)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
7	運動中の呼吸循環機能の評価(2)	換気亢進のメカニズム（運動強度の違いによる換気量の変化を評価する）
8	運動中の呼吸循環機能の評価(3)	運動時の心拍数の変化について理解する（運動中の心拍変動を分析する）
9	運動中の呼吸循環機能の評価(4)	運動時の血圧調節について理解する（運動中の血圧変化を分析する）
10	運動中の呼吸循環機能の評価(5)	酸素負債と酸素借について理解する
11	運動中の体温調節機構について(1)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
12	運動中の体温調節機構について(2)	運動と熱放散反応（運動時の体表面温を分析）
13	運動中のエネルギー代謝について	飲料水摂取後の血中グルコース濃度を測定し、糖質の代謝とその機能について理解する
14	運動時の筋活動機能の評価(1)	筋電図の測定（1）
15	運動時の筋活動機能の評価(2)	筋電図の測定（2）

科目名	運動栄養学		科目ナンバリング	H1BX22005	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に敏感に反応し、学び続ける態度（生涯学習力）				

《授業の概要》

われわれ人類の健康を維持したり増進させたりするためには、栄養・運動・休養の三要素が必要である。特に栄養は毎日の生活の基礎である食事や食生活のあり方につながるだけに重要であり、健康やスポーツに携わる者にとり基本的な栄養知識は必須である。そこで、栄養と運動や健康の関わりを中心に、栄養学の基礎と運動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方と問題点について述べる。

《授業の到達目標》

栄養と運動は車の両輪のようなものである。生活習慣病の数々は、運動と栄養のバランスの乱れに起因している。また、スポーツを行うにあたり、パフォーマンスを高めるための土台となる栄養素の働きについて理解できるようになることが重要である。この運動栄養学の講義を通じて、栄養学の基本的な内容を説明できるようになり、運動や身体活動時のエネルギーや栄養素摂取のあり方についての基礎的な知識を説明できる。

《成績評価の方法》

成績評価は定期試験の結果（80%）、各单元ごとに行う確認テスト（10%）、レポート課題（10%）によって評価する。100点満点で60点以上を合格とする。レポート課題はコメントをつけて返却する。確認テストは時間内に解答解説を行う。

《テキスト》

「スポーツと健康の栄養学」（第3版）下村吉治著（NAP）2010年、また必要に応じて関連した資料も配付する。

《参考図書》

「健康づくりと競技力向上のためのスポーツ栄養マネジメント」鈴木志保子（日本医療企画）2011年、「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平、樋口満編（第一出版）2006年、「実践的スポーツ栄養学」鈴木正成著（文光堂）2006年、「身体運動・栄養・健康の生命科学Q&A 栄養と運動」伏木亨他著（杏林書院）2001年

《授業時間外学習》

テキストの指定箇所を事前に読んでおくとともに、1年時開講の「栄養学」で学んだ内容についてよく理解しておくこと。また、单元ごとに復習を兼ねて確認テストを実施する予定にしていますので、各自で学習しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念と栄養	栄養と運動や健康の関わりについて理解する
2	栄養学の基礎(1)	運動時の炭水化物・脂質・蛋白質の働きについて理解する
3	栄養学の基礎(2)	運動時のビタミン・無機質の働きについて理解する
4	栄養学の基礎(3)	エネルギー産出と筋運動時のエネルギー
5	栄養学の基礎(4)	生活活動とエネルギー消費
6	運動時の栄養補給(1)	運動時の糖質代謝（スタミナと炭水化物ローディング）について理解する
7	運動時の栄養補給(2)	運動時の脂質代謝について理解する
8	運動時の栄養補給(3)	運動時の蛋白質代謝について理解する
9	運動時の栄養補給(4)	運動時のビタミン・無機質の代謝、生体内での役割について理解する
10	運動と栄養素の消化・吸収	運動中の栄養素の消化・吸収について理解する
11	活性酸素と運動・栄養	抗酸化剤（サプリメント）の効果について理解する
12	トレーニング期と試合期の食事	筋肉づくりのための食事タンパク質の摂取方法について説明できる
13	栄養・食事アセスメント(1)	栄養状態の判定と評価
14	栄養・食事アセスメント(2)	運動期間中の食事アセスメントの方法と実際
15	日本人の食事摂取基準(栄養所要量)	栄養素摂取量の現状と運動時の活用法について説明できる

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ジュニアスポーツ I		科目ナンバリング	H1BB12006	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）</li> <li>◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）</li> </ul>				

《授業の概要》

日本体育協会ジュニアスポーツ指導員養成としての基本を学ぶ。運動指導にあたって、子どもの発育発達特徴を理解した上で、幼児期・児童期前半期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。

《テキスト》

「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト（理論編）（実践編）（ノート）」計3冊組 ¥7,800+税。あわせて必要に応じて資料等も配布する。

《参考図書》

「マイネル スポーツ運動学」大修館書店、「疾走能力の発達」杏林書院、「スポーツ生理学」化学同人、「幼児の有酸素性能力の発達」杏林書院、「こどもスポーツ外来」全日本病院出版会

《授業の到達目標》

日本体育協会ジュニアスポーツ指導員養成としての基本を学ぶ。運動指導にあたって、子どもの発育発達特徴を理解し幼児期・児童期前半期における運動の正しい実践方法の知識を身につける。様々な運動の考え方や実践方法を理解する事によって、幼児期・児童期前半期に適した運動実践の在り方を学ぶ。

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくこと。実技に関する事は、事前に取り組むこと。<復習方法> 学んだ内容をノートにまとめる。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

毎時間積極的且つ真剣に授業に参加する事を望む。評価は、随時出される課題に対するレポート（30%）、実技課題（10%）。学期末に理解度を確認するテスト（60%）。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

指導者養成を目的として授業を行いますので、その心構えを持って望むこと。指導者を目指す者として積極的に必要な知識を身につけて欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、授業ノートのまとめ等の説明。
2	発育発達期の特徴	子ども達を取り巻く問題点と運動・スポーツの必要性、指導における問題点の対策について。からだの発育発達の特徴と心理的特徴
3	発育発達期の障害と予防	発育発達期に応じた運動・スポーツの理解（コーディネーション能力、オーバートレーニング防止、スポーツの在り方、望ましいライフスタイルとの関係等について）
4	精神面の発達特徴	年代別における精神面の発達特徴の理解とコミュニケーション（コミュニケーションスキルにおける基本的項目：観察・傾聴・洞察）体力と運動機能の発達と特徴
5	体力と運動機能の発達	体力と運動機能（関節運動を含む）発達過程と特徴（運動指導におけるコミュニケーションスキルのための観察・傾聴・洞察）
6	心拍数の運動生理学	心拍数からみた幼児・児童の運動発達の特徴と全身運動
7	呼吸循環機能の発達	各年代における呼吸循環機能の発達と運動
8	移動系運動の発達と指導法と指導プログラム	移動系運動の発達と実際（スポーツスキルの習得：1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
9	操作系・非移動系（平衡系）運動の発達	指導方法及び指導プログラム（スポーツスキルの習得：1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
10	体力測定及び運動能力測定	体力測定及び運動能力測定の実施方法及び測定結果の活用方法（スポーツスキルの習得および上達のためのデータ活用）
11	運動指導プログラム	各年代における発育発達特徴を踏まえた運動指導プログラムの実際と指導法（コミュニケーションの3Vの法則：言語、聴覚、視覚を踏まえたアドバイス等）
12	移動系運動指導のプログラム	移動系運動の考え方をと指導プログラム（1人・親子・グループゲーム）集団ゲームゲームスキル獲得のための方法と実際。コーディネーション能力トレーニングを含む）
13	操作系運動指導のプログラム	操作系運動の考え方と指導プログラム（1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
14	非移動系（平衡系）運動の指導プログラム	非移動系（平衡系）運動の考え方と指導プログラム（1人・親子・グループゲーム、コーディネーション能力トレーニングを含む）
15	まとめ	幼児期及び児童期前半の発育発達特徴を踏まえた運動指導プログラム。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ジュニアスポーツ II		科目ナンバリング	H1CX22007	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

公認ジュニアスポーツ指導員の養成を目的に授業を実施し、以下の能力の獲得をめざす。①発育発達期の身体的・心理的特徴を理解する ②基本動作の習得のためのプログラムが活用できる ③「あそび」のプログラムが活用できる ④コーディネーション能力を高めるプログラムが活用できる ⑤コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の獲得

《授業の到達目標》

児童期から青年前期にかけての子どもを対象に発育発達特徴を理解した上で運動・スポーツの基本的な知識を学ぶ。具体的なスポーツスキルの獲得に至る迄の各段階での運動・スポーツ指導の方法、心構え全般を理解し身につける。

《成績評価の方法》

随時課題に対するレポート提出（30%）  
 学期末に理解度を確認するテスト<筆記及び実技>（70%）  
 レポート等の提出物の期日、時間の厳守。期日を過ぎた提出物は原則受け取りません。  
 不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 理論編」「公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 実践編」日本体育協会  
 ＊必要に応じて資料も配付する。

《参考図書》

「疾走能力の発達」宮丸凱史（杏林書院）、「幼児の有酸素性能力の発達」吉澤茂弘（杏林書院）、「発達運動論」臼井永男（放送大学）、「体力を高める運動75選」神家一成（東洋館出版）、「コーディネーション運動65選」東根明人（明治図書）

《授業時間外学習》

事前にテキスト等、該当箇所を予習することを望む。あわせて実際に該当する運動等を行うこと。

《備考》

指導者養成を目的として実施するので、その心構えを持つ事。あわせて、自ら積極的に専門分野の学習を行うことを強く望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する。
2	移動系運動①	移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ（移動系運動①）
3	移動系運動②	移動系運動を中心とした運動あそび・ゲームの実際を学ぶ
4	操作系運動①	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
5	操作系運動②	操作系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
6	操作系運動③	操作系運動を中心とした運動遊び・ゲームの実際を学ぶ。コーディネーション能力を含む
7	非移動系運動①	非移動系運動を中心とした運動の発達とスキルの獲得について学ぶ
8	非移動系運動②	非移動系運動を中心とした運動遊び・ゲームの実際について学ぶ（コーディネーション能力トレーニングを含む）
9	対人ゲーム（1）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
10	集団ゲーム（1）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
11	集団ゲーム（2）	スポーツスキル獲得のための方法と実践（コーディネーション能力を含む）
12	小学校体育（1）	低学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）
13	小学校体育（2）	中学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）（コーディネーション能力を含む）
14	小学校体育（3）	高学年における体育指導の考え方と実践方法（スポーツスキル獲得のための方法と実践）（コーディネーション能力を含む）
15	まとめ	スポーツスキルの上達のためのデータ活用等を学ぶ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	スポーツ心理学	科目ナンバリング	H1BX22009
担当者氏名	堤 俊彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> </ul>		

《授業の概要》

スポーツの場面の心理・行動学的な視点理解を深めるに、スポーツを通じた発達、心理とパフォーマンスとの関係、競技不安やストレスマネジメント、動機づけのメカニズムと方法、スポーツパーソナリティ、対人認知、メンタルコンディショニング、などについて考究する。あわせて、スポーツ選手のパフォーマンスを支援する心理サポートの理論的背景を行動科学的な視点からの応用技法を学習する。

《授業の到達目標》

スポーツ場面における心理・行動学的な基礎的な事項について説明できる。  
 スポーツにおける各種心理的支援の行い方について知識を得る。  
 行動変容に必要なとなるカウンセリングに関する知識を学び技法を習得する。

《成績評価の方法》

フィードバック(50%)、予習レポート(30%)、毎講義後のふり返り(20%)を総合して評価とする。レポートにはポイント及びコメントを付与して返却する。フィードバックに関しては別の用紙にコメントを記入して配布する。授業の到達目標に対しては、講義振り返りペーパーを通して講評を行い、質問や疑問に答えると共に次年度に反映させる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	スポーツ心理学が生まれた背景から発展してきた歴史的背景が説明できる。
2	メンタルトレーニングの必要性	心理的スキルのトレーニングとしてメンタルトレーニングについて概観できる。
3	コーチングの心の作業	スポーツチームを作る上で選手を良好な関係を築くための「心の作業」について知る。
4	スポーツと人間性	チーム力の強化をはかる上で必要となる人間性やチームファーストの論理を理解する。
5	情動コントロール	いかに練習や試合に集中し、効果をあげるかに関し、フロー（ゾーン）とアローザルコントロールの観点から学ぶ。
6	情動統制	いかにやる気を引き出し、継続させるかについて、最新の情動のコントロール法を学ぶ。
7	やる気の育て方	日々の練習や試合の場面で力を発揮するための、やる気を引き出すコーチングについての理論と実践を学ぶ。
8	チームマネジメント	チーム作りを行う上での、チームとしての最大限の力が発揮できるための組織作りについての知見を得る。
9	スポーツと発達	スポーツを通して人間的な成長へと導くための必要となる、ヒトとしての発達の基盤を知る。
10	コミュニケーション	選手との良好な関係を築き、試合や練習での動機づけを高めるための傾聴を中心とする様々な技法を習得する。
11	スポーツパーソナリティ	スポーツの競技場面に影響を及ぼす可能性のある個々のパーソナリティの特性の把握の仕方を知る。
12	目標設定	チーム全体として選手個人としての目標をどのように、効果的に行うかの理論と実践法を学ぶ。
13	チームビルディング	チームワークの理論と向上のためのトレーニング、チームビルディングの方法論について学ぶ。
14	行動コーチング	行動理論を基として、成功体験を積み重ねることによる行動パターンの育成について強化の原理を中心に学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業で行ってきた内容を振り返り、個々の理論やスキルなどについての再確認を行う。

《テキスト》

授業ごとに資料を配布します。

《参考図書》

スポーツメンタルトレーニング教本、日本スポーツ心理学会編、大修館書店

《授業時間外学習》

講義の前に指定箇所を必読し、その要約とコメントを予習レポートとして提出すること。  
 復習課題が出ます。テーマに即した要約とそれに対するコメントをレポートとしてまとめて下さい。

《備考》

本クラスではパフォーマンスやメンタルマネジメントに関し実践的な内容を習得します。それらを、実践の場で応用できるように期待しています。

科目名	トレーニング科学 I		科目ナンバリング	H1BX22014	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ◎ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得をレジスタンストレーニングを中心にを行います。実際にレジスタンストレーニングを行い理解を深めます。（時間配分：理論習得に約70%、実技習得に約30%）基本はテキストを中心に解説し、必要に応じてトピックス等を追加します。数回のレポート課題があります。

《授業の到達目標》

トレーニング指導において必要なレジスタンストレーニングの基礎知識の獲得を行います。健康運動実践指導者におけるレジスタンストレーニングの基本知識ならびに基本技術を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》

・数回のレポートと筆記テスト(70%)、実技テスト(30%)の結果のみで評価します。  
 ・レポートは期日厳守です。原則遅れは受け取りません。不明な点等が、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「健康運動実践指導者用テキストー健康運動指導者の手引きー」（財）健康・体力づくり事業財団

《参考図書》

「NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識」森永製菓（株）健康事業部、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「筋力をデザインする」杏林書院、「筋力トレーニングの理論と実際」大修館書店、「スポーツ・健康科学」放送大学、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

・該当する箇所はテキストを事前に読んで理解しておく事。  
 ・実技に関しては、自ら時間を作って練習ならびに実践を行うことを強く希望します。

《備考》

実際にレジスタンス運動を行います。運動指導者を目指す学生が、より多くの知識や技術が習得できるようにサポートしますので、積極的に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	指導者について	トレーニング指導者における必要な素養や技術等について学び理解する。
3	スポーツ障害について	スポーツ障害の発生について理解する。あわせていかに予防するかをレジスタンストレーニングの視点から考える。
4	レジスタンストレーニングとは	静的、動的筋収縮における基本的なレジスタンストレーニングについてその特徴や理論を理解する。
5	レジスタンストレーニングの種類	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングの種類とその特徴について理解する。
6	トレーニングのプログラムとは	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム作成のための計画について理解する。
7	トレーニングのプログラム評価	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム評価のための指標について理解する。
8	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-1。下腿のトレーニング種類と特徴を理解する。
9	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-2。上肢のトレーニングの種類と特徴を理解する。
10	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-3。体幹のトレーニングの種類と特徴を理解する。
11	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-4。話題性の高いレジスタンストレーニングについてその効果等を知る。
12	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮におけるレジスタンストレーニングのプログラム-5。高齢者を対象としたレジスタンストレーニングについて理解する。
13	レジスタンストレーニング	静的、動的筋収縮における成長期におけるレジスタンストレーニングについて理解する。
14	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングと栄養に関する事項をサプリメントの活用等から理解する。
15	まとめ&実技テスト	実技のチェック（テスト）&総まとめを行う。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	トレーニング科学Ⅱ		科目ナンバリング	H1BX22015	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》

筋力トレーニングをテーマにその理論と実践を学びます。基本的な運動生理学、解剖学、運動栄養学の知識を取得している者を対象とし、筋力トレーニング指導において必要な基礎知識（運動生理学、解剖学、トレーニング理論、方法論等）の習得を行います。授業は、各回テキストの1章のスピードで解説を行いながら随時トピックス等を追加します。適宜レポート課題あり。

《授業の到達目標》

ストレングスコーチの養成を目標とします。レジスタンストレーニング指導において必要な基礎知識の獲得を行います。その結果、基本的なレジスタンストレーニングのメニューや指標作り、ならびにトレーニング評価が出来るレベルを目指します。

《成績評価の方法》

レポートとテスト(100%)の結果のみで評価します。レポート提出は期日厳守です。原則遅れは受け取りません。\*加点主義です。努力した分は積極的に評価します。不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

「筋力トレーニングの理論と実践」大修館書店  
¥2,900+税  
\*必要に応じて資料も配布します

《参考図書》

「ストレングストレーニング&コンディショニング」ブックハウスHD、「レジスタンストレーニングのプログラムデザイン」ブックハウスHD、「競技力向上のトレーニング戦略」大修館書店、「入門運動生理学第3版」杏林書院、「スポーツ医科学」杏林書院、「臨床スポーツ医学」医学映像教育センター、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に指定された内容の箇所テキストを読んで、「わからない点」を明確にしておくことを求めます。そのわからないところやわかりにくい点ならびに重要箇所を中心に解説します。

《備考》

ストレングスコーチを目指す人が、より多くのことを学べるよう積極的に授業を展開します。テキストの予習をした上での積極的な姿勢を望みます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業方針や評価方法等について説明します。受講者は必ず出席すること。
2	トレーニング理論について	トレーニング理論の基本概念の解説と理解を行う。
3	特異性について	運動課題に応じた特異的な筋力について学ぶ（筋力の決定要因に関する内容）
4	最大筋力について	スポーツ競技に応じた特異的な筋力について学ぶ（最大筋力に関する内容）
5	トレーニング強度について	筋力トレーニングの強度について学ぶ（トレーニング強度に関する内容）
6	トレーニング計画について	筋力トレーニングのタイミングについて学ぶ（トレーニング計画に関する内容）
7	トレーニングの種類について	筋力トレーニングの種類について学ぶ（方法の選択に関する内容）
8	障害予防について	障害の予防について学ぶ（筋力トレーニングと障害予防に関する内容）
9	目的に応じたトレーニングについて	目的に応じた筋力トレーニングについて学ぶ（筋力、パワー、持久力の向上に関する内容）
10	性差や健康増進について	女性のための筋力トレーニングについて学ぶ（性差や健康の維持増進に関して生理学的、解剖学的な面から理解する）
11	ジュニア期におけるトレーニングについて	ジュニアのための筋力トレーニングを中心に学ぶ（発育発達における適時性や特性に加えて健康づくりの促進に関する内容を学び理解する）
12	高齢者など加齢や健康について	シニアのための筋力トレーニングについて学ぶ（加齢、可塑性、健康の維持増進等に関する内容について学び理解する）
13	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ1（使用する筋の名称や位置に関する内容）
14	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）
15	レジスタンストレーニングの手技について	基本的なフリーウエイトの手技について学ぶ2（目的に応じた選択に関する内容）

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践演習 I		科目ナンバリング	H1CX21043
担当者氏名	朽木 勤			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）</li> <li>◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> </ul>			

《授業の概要》

運動実践を通して、健康づくりの運動指導者としての能力を養うことを目標とする。特に健康に関連する体力要素について、有酸素運動を正しく実践する。また、年代によって異なる健康のための体力を理解し、その運動を実践する。各自がこの授業を通して体得したものが、次年度以降の授業に有効に活用されることを期待する。さらに、水泳（水中運動）とエアロビクスダンスに関しては定期時間外の集中講義にて実施する。

《授業の到達目標》

この演習では、運動の指導者としての能力を身につけるために、実践してみることが目的である。各テーマについてその意義を理解し、健康づくりとしての効果が期待できるように実施することが重要である。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	健康に関連する体力	健康に関連する体力とスキルに関連する体力を理解する
3	健康づくり運動の実際(1)	ウォームアップの実践
4	健康づくり運動の実際(2)	クーリングダウンの実践
5	健康づくり運動の実際(3)	ウォーキングの実践
6	健康づくり運動の実際(4)	ジョギングの実践
7	健康づくり運動の実際(5)	一連の有酸素運動プログラム実践
8	年代に応じた体力づくり(1)	児童期における健康のための体力づくりの実践
9	年代に応じた体力づくり(2)	青少年期における健康のための体力づくりの実践
10	年代に応じた体力づくり(3)	成人期における健康のための体力づくりの実践
11	年代に応じた体力づくり(4)	中高年期における健康のための体力づくりの実践
12	年代に応じた体力づくり(5)	高齢者における健康のための体力づくりの実践
13	体力レベルに応じた体力づくり(1)	介護予防の運動指導法(1)
14	体力レベルに応じた体力づくり(2)	介護予防の運動指導法(2)
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「ライフスタイル療法<1>第4版生活習慣改善のための行動療法」,足達淑子（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

毎時間、確認テストを行う。確認テスト不合格の場合はレポート課題を課す。専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	健康・体力づくり実践演習Ⅱ		科目ナンバリング	H1CX21045
担当者氏名	朽木 勤			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> </ul>			

《授業の概要》

運動実践を通して、健康づくりの運動指導者としての能力を養うことを目標とする。健康・体力づくり実践演習Ⅰで実践したことをベースとして、特に健康に関連する体力要素について、有酸素運動を正しく実践する。また、年代によって異なる健康のための体力を理解し、その運動を実践する。

《テキスト》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」健康体力づくり事業財団（南江堂）2016年、「健康運動指導士養成講習会テキスト」健康体力づくり事業財団（社会保険研究所）2016年

《参考図書》

「ライフスタイル療法<1>第4版生活習慣改善のための行動療法」,足達淑子（医歯薬出版）

《授業の到達目標》

この演習では、運動の指導者としての能力を身につけるために、指導者の立場になってグループで実践することが目的である。健康・体力づくり実践演習Ⅰで実践したことをベースとして、指導法の要点を意識してコミュニケーションをとることが重要である。また互いに指導者としての課題を指摘する。

《授業時間外学習》

毎時間、確認テストを行う。確認テスト不合格の場合はレポート課題を課す。専門用語について、事前に各自で意味を理解しておくこと。

《成績評価の方法》

演習中に行う確認テスト(30%)と課題レポート(10%)、実技テスト(20%)、最終確認試験(40%)により評価する。確認テストにより生じる課題レポートは提出期限を守ること。期限後に提出されたレポートは評価対象外とする。わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の概要を説明する
2	年代に応じて必要な体力	年代に応じた健康と体力の意義
3	健康づくり運動の実際(1)	ウォームアップの指導法
4	健康づくり運動の実際(2)	クーリングダウンの指導法
5	健康づくり運動の実際(3)	ウォーキングの指導法
6	健康づくり運動の実際(4)	ジョギングの指導法
7	健康づくり運動の実際(5)	一連の有酸素運動プログラム作成
8	年代に応じた体力づくり(1)	児童期における健康のための体力づくりの指導法
9	年代に応じた体力づくり(2)	青少年期における健康のための体力づくりの指導法
10	年代に応じた体力づくり(3)	成人期における健康のための体力づくりの指導法
11	年代に応じた体力づくり(4)	中高年期における健康のための体力づくりの指導法
12	年代に応じた体力づくり(5)	高齢者における健康のための体力づくりの指導法
13	体力レベルに応じた体力づくり(1)	介護予防の運動指導法(1)
14	体力レベルに応じた体力づくり(2)	介護予防の運動指導法(2)
15	まとめ	授業全体のまとめをする

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	器械運動 I		科目ナンバリング	H1CX22051	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）</li> <li>◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> </ul>			

《授業の概要》

「学習指導要領解説 保健体育編」を理解すること。特に器械運動の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

期間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

器械運動における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

<予習方法> 下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。<復習方法> 学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。  
毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（20%）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30%）。  
提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	マット運動（1）	回転系／接転／前転・後転
3	マット運動（2）	回転系／はん転／倒立回転・倒立回転跳び・はねおき
4	マット運動（3）	巧技系／平均立ち／片足平均立ち・倒立
5	マット運動（4）	回転系・巧技系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる
6	鉄棒運動（1）	支持系／前方支持回転／前転・前方足かけ回転
7	鉄棒運動（2）	後方支持回転／後転・後方足かけ回転
8	鉄棒運動（3）	懸垂系／懸垂・懸垂振動→後方後跳び降り等
9	平均台運動（1）	体操系／歩走・前方歩き・後方歩き
10	平均台運動（2）	体操系／跳躍・伸身跳び（両足踏切）・開脚跳び（片足踏切）
11	平均台運動（3）	バランス系／ポーズ・立ち、座臥, 支持ポーズ
12	跳び箱運動（1）	切り返し系／切り返し跳び／開脚伸身跳び
13	跳び箱運動（2）	切り返し系／切り返し跳び／かかえ込み跳び→屈伸跳び
14	跳び箱運動（3）	回転系／回転跳び／頭はね跳び
15	跳び箱運動（4）	切り返し系・回転系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	武道Ⅱ	科目ナンバリング	H1CX22052
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> </ul>		

《授業の概要》

学習指導要領解説 保健体育編 を理解すること。特に教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導的  
確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する

《授業の到達目標》

武道を通して技能や伝統的な行動の仕方を理解し、課題に応じた取り組み方を段階的に修得することができるようにする。

《授業時間外学習》

毎授業で実践したことを復習し、反復練習をして身につける。  
ノートにまとめておくことも今後の指導にとって重要である。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）20%

実技テスト（達成度）80%

実技テストは評価にコメントを付して個人に伝える。

レポートはコメントを付して返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、身体運動文化の追求とスポーツを通して自己を高めていこう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 剣道 基本動作①	すり足、歩み足、継ぎ足 ～体の移動
2	基本動作②	受け身、前回り受け身、横受け身、後ろ受け身
3	基本となる技①	反復練習
4	基本となる技②	投げ技（膝車→支え釣り込み足、大外刈り→小内刈り、体落とし→大腰）
5	基本となる技③	固め技（けさ固め、横四方固め、上四方固め）
6	基本となる技④	反復練習、投げ技、固め技
7	自由練習・試合	練習試合
8	まとめ	竹刀の持ち方、構え方、体さばき
9	オリエンテーション 柔道 基本動作①	①の反復練習、基本打突の仕方、受け方
10	基本動作②	①しかけ技 二段の技（面一胴、小手一面、二段の技）引き技（引き面、引き胴） ②応じ技（抜き技）
11	基本動作③	両抜き胴、小手抜き面
12	基本となる技①	かかり練習、約束練習
13	基本となる技②	しかけ技、応じ技、自由練習、試合
14	基本となる技③	技を確かめる 総合的な技の出し合い
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ダンス／水泳 I	科目ナンバリング	H1CX22053
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	実技	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）</li> <li>◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> </ul>		

《授業の概要》

ダンス及び水泳の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。ダンスでは、基礎的なダンス理論や身体の使い方を理解し、創作ダンスやフォークダンスなどの基礎的な技能を習得する。水泳では各種泳法について学習し、水泳の基礎的な技能を習得する。また、安全で効果的な水泳指導法について理解する。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する。

《授業の到達目標》

ダンス及び水泳における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

実技の技能向上を目指し、各自で準備を行っておくこと

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）、レポート50%、実技テスト（達成度）50%  
提出したレポートには、コメントをつけて返却する。

《備考》

ダンスでは、実技に適したウェアを必ず着用すること。  
水泳では、ピアスなど水着以外のものは必ず外しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	創作ダンス	多様なテーマから表したいイメージをとらえ、表現できる
3	創作ダンス	動きに変化を付けて即興的に表現できる
4	創作ダンスのまとめ	変化のあるひとまとまりの表現にして踊ることができるようになる
5	フォークダンス	各国の踊り方の特徴をとらえることができる
6	フォークダンス	音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることができるようになる
7	現代的なリズムのダンス	ロックやヒップホップなどのリズムの特徴をとらえることができる
8	現代的なリズムのダンス	変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って全身で踊ることができるようになる
9	クロール	手と足、呼吸のバランスをとり速く泳ぐことができるようになる
10	平泳ぎ	手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐことができるようになる
11	クロールと平泳ぎ	タイムトライアル及び持久泳
12	背泳ぎ	手と足、呼吸のバランスをとり、泳ぐことができるようになる
13	バタフライ	手と足、呼吸のバランスをとり、泳ぐことができるようになる
14	背泳ぎとバタフライ	タイムトライアル及び持久泳
15	まとめ（水泳）	4泳法を用いてタイムトライアル及び持久泳

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	器械運動Ⅱ		科目ナンバリング	H1CX22054	
担当者氏名	木下 幸文				
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ◎ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）			

《授業の概要》

「学習指導要領解説 保健体育編」を理解すること。特に器械運動の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

時間中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

器械運動における各種目の特性やルールを理解し、必要な能力を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《授業時間外学習》

＜予習方法＞下記授業計画における次時の授業内容を参考文献等であらかじめ確認しておくことでより理解が深まる。＜復習方法＞学んだ内容を配付資料等により再確認にノートにまとめる。疑問点等があればノートの感想欄に記載すること（後日必ず返答する）。これらの活動を通して効果的な理解が得られると考える。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。  
 毎時間の授業のまとめ、感想、質問等をまとめたノートを提出する（50%）。随時課題に対するレポート（20%）。各種目技能の習熟度を確認する実技テスト（30%）。  
 提出されたノートやレポートにはコメントをつけて返却する。

《備考》

健康システム学科の学生として、スポーツ・学校体育の理論と実践を積極的に体得しよう。スポーツ活動に相応しい服装で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	マット運動（1）	回転系／開脚前転→伸膝前転・倒立前転→跳び前転・開脚後転→伸膝後転等
3	マット運動（2）	回転系／側方倒立回転→側方倒立回転跳び1/4ひねり等
4	マット運動（3）	巧技系／片足平均立ち・片足正面水平立ち→片足側面水平立ち、Y字バランス
5	マット運動（4）	回転系・巧技系の基本技、条件を変えた技、発展技の組み合わせを考える
6	鉄棒運動（1）	支持系／前方支持回転→前方伸膝支持回転・支持跳び越し下り
7	鉄棒運動（2）	支持系／後方支持回転→後方伸膝支持回転・後方浮き支持回転
8	鉄棒運動（3）	支持系・懸垂系の基本技、条件を変えた技、発展技の組み合わせを考える
9	平均台運動（1）	体操系／前方ツーステップ・前方走・後方ツーステップ
10	平均台運動（2）	体操系／かかえ込み跳び・開脚跳び下り・前後開脚跳び等
11	平均台運動（3）	体操系とバランス系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる
12	跳び箱運動（1）	切り返し系／開脚跳び→開脚伸身跳び等の反復練習
13	跳び箱運動（2）	切り返し系／かかえ込み跳び→屈伸跳び等の反復練習
14	跳び箱運動（3）	回転系／前方屈腕倒立回転跳び→前方倒立回転跳び等
15	跳び箱運動（4）	切り返し系・回転系の基本技、条件を変えた技、発展技を組み合わせる

《専門教育科目 I 群（運動・体育に関連する科目）》

科目名	ダンス／水泳 II		科目ナンバリング	H1CX22055
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	実技	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力）</li> <li>◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）</li> </ul>		

《授業の概要》

ダンス及び水泳の教育内容を把握し、保健体育授業の指導者として種目特有の指導と的確な行動力と判断力の修得を目指す。ダンスでは、様々なダンス技術を学びながら、創作ダンスやフォークダンスなどを通じてダンスにおける表現の技能も習得する。水泳では泳法の技能についても学習し、水泳の基礎的な技能の向上を図る。また、安全で効果的な水泳指導法について理解を深める。

《授業の到達目標》

ダンス及び水泳における各種目の特性やルールを理解し（知識・思考・判断）、必要な能力（技能）を体得する。それぞれの場面に応じた課題に取り組み（態度）、段階的に練習方法や指導方法を修得する。

《成績評価の方法》

毎時間の授業のまとめ（ノート提出）、レポート50%、実技テスト（達成度）50%  
技能、態度、知識・思考・判断の3つの到達目標をもとに授業ノート、レポート、実技テストより評価する。  
レポートについては、コメントをつけて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の実施方法等について説明
2	創作ダンス	表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で表現できる
3	創作ダンス	緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現できる
4	創作ダンスのまとめ	簡単な作品にまとめて踊ることができるようになる
5	フォークダンス	各国の踊り方の特徴をとらえ、表現できる
6	フォークダンス	音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ることができる
7	現代的なリズムのダンス	ロックやヒップホップなどのリズムの特徴をとらえることができる
8	現代的なリズムのダンス	変化のある動きを組み合わせてリズムに乗って全身で踊ることができる
9	クロール	手と足、呼吸のバランスを保ち安定したペースで速く泳ぐ、長く泳ぐことができる
10	平泳ぎ	と足、呼吸のバランスを保ち安定したペースで速く泳ぐ、長く泳ぐことができる
11	クロールと平泳ぎ	タイムトライアル及び持久泳ができるようになる
12	背泳ぎ	手と足、呼吸のバランスをとり安定したペースで泳ぐことができる
13	バタフライ	手と足、呼吸のバランスをとり安定したペースで泳ぐことができる
14	背泳ぎとバタフライ	タイムトライアル及び持久泳ができるようになる
15	まとめ（水泳）	4泳法を用いてタイムトライアル及び持久泳

《テキスト》

文部科学省「中学校学習指導要領解説 保健体育編」

《参考図書》

適宜、参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

実技の技能向上を目指し、各自で準備を行っておくこと。

《備考》

ダンスでは、実技に適したウェアを必ず着用すること。  
水泳では、ピアスなど水着以外のものは必ず外しておくこと。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	発育発達概論		科目ナンバリング	H2BB12019
担当者氏名	米野 吉則			
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

発育発達に伴うからだところの変化の特徴をライフステージごとに理解する。健康の基本的な考え方となる「心身の成長」について、人間を身体と精神の両面から総合的に捉えて、具体的なデータを示しながら展開する。

《テキスト》

「人間発達学」 福田恵美子 中外医学社

《参考図書》

「人間発達学ヒトはどう育つのか」 竹下研三 中央法規  
 「写真でみる乳児の運動発達－生後10日から12か月まで」  
 Lois Bly 協同医書出版社  
 「生涯人間発達学」 上田礼子 三輪書店

《授業の到達目標》

- ・発育発達と健康の関係について理解し説明することができる。
- ・人間の形態的な発育と機能的な発達を理解し、ライフステージにおける標準的なプロセスを説明することができる。
- ・発育発達に関わる諸問題から、発育発達が影響される環境要因について理解し説明することができる。

《授業時間外学習》

2回目以降はシラバスにより授業時のテーマや内容を把握し、事前に必ず予習しておくこと、また、授業内容についての質問を準備しておくこと良い。復習についても最低限、毎授業内容を見返しておくことを求める。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート(20%)、グループワーク発表内容(10%)、定期試験(70%)
- ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

学科必修科目であり、教員免許、健康運動指導士等の必修科目でもある。学生は意欲的・積極的な態度で受講すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション及び発育発達の基礎理論	授業の概要等の説明ならびに発育発達の基礎理論について説明する。発育と発達の違い、年齢と時代、可塑性、臨界期と敏感期など。
2	発育発達と健康、ヒトの発育発達のな特徴	発育発達と健康の関係、進化から見たヒトの心身の発達の特徴について理解する。
3	乳児期の発育発達①	乳児期の形態の質量変化、乳歯の萌出、粗大運動、微細運動、原子反射について理解する。
4	乳児期の発育発達②	乳児期の感覚運動、動作の協調、発語、模倣、情緒の安定について理解する。
5	幼児期の発育発達①	幼児期の形態の質量変化、歩行、道具の操作、平衡機能について理解する。
6	幼児期の発育発達②	幼児期の言語発達、概念発達、遊びの機能、自我、他者理解について理解する。
7	学童期の発育発達①	学童期の運動能力と認知機能について理解する。
8	学童期の発育発達②	学童期の自尊感情、仲間関係、自己制御について理解する。
9	青年期の発育発達①	青年期の運動能力、思春期の身体の変化や生理について理解する。
10	青年期と発育発達②	青年期のアイデンティティの確立、職業選択、健康観について理解する。
11	成人期と生涯発達	成人期の身体的な変化、家族の形成、世代性、仕事と余暇、人格の安定について理解する。
12	老人期と生涯発達	老人期の認知機能、体力の低下、老化、死の受容について理解する。
13	発育発達に関わる諸問題 (I) からだ	子どものからだを窓口にして、最近の健康課題、発育発達の課題を提示し、グループで討議する。
14	発育発達に関わる諸問題 (II) 発達と障害	子供の発達と障害について提示し、グループで討議する。
15	発育発達に関わる諸問題 (III) 性教育	子どもの性に関する課題を提示し、グループで討議する。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健II		科目ナンバリング	H2BC22008	
担当者氏名	加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> <li>○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> </ul>				

《授業の概要》

学校保健は子どもの命と健康を守るために必要な教育活動であり、学校教育にかかわる者に必要な使命である。学校保健Iの学修内容をもとに学校保健活動の実際の理論と方法を学び、児童生徒の健康づくりを考えることをねらいとしている。学校安全を含めた保健管理の領域を中心に、必要な知識や技術を修得するとともに児童生徒の心身の健康について演習や実習を通して具体的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 学校保健の領域を構造的にとらえることができる
- 児童生徒の健康・安全に対する教師の役割や責任について説明できる
- 学校保健活動の根拠となっている法律や制度を説明することができる

《成績評価の方法》

レポート等(20%) 定期試験(70%) で総合的に判断する  
レポートは評価コメントを加えて返却する

《テキスト》

「学校保健ハンドブック」 教員養成系大学保健協議会編  
東山書房

《参考図書》

学校保健の動向（平成27年度版）

《授業時間外学習》

学校教育、学校保健に関するトピックスを提示するので、「読み取る」「調べる」などして自分の意見をまとめ次回に提出する

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健活動の構造及び展開	学校保健と学習指導要領、保健教育・保健管理・保健組織活動、学校保健計画
2	学校保健活動の構造及び展開	子どもの健康問題の推移、現代的健康課題、ヘルスプロモーション
3	健康実態把握の方法	文部科学省学校保健統計、健康観察、保健調査、健康診断
4	児童生徒の健康診断(1)	学校行事としての健康診断、計画から事後措置
5	児童生徒の健康診断(2)	実習、技術的基準 身体測定、視力検査、聴力検査 教育活動としての健康診断
6	メンタルヘルスケアとその体制	健康相談、校内組織体制、スクールカウンセラー 心のケア サポートシステム
7	感染症・食中毒の予防と管理	学校で予防すべき感染症、出席停止、臨時休業、食物アレルギーへの対応
8	学校環境衛生活動	学校環境衛生基準
9	学校環境生成活動の実際	日常の点検活動 定期検査 飲料水の検査 プール水の検査 残留塩素 照度検査
10	学校における危機管理、安全管理	学校危機管理 安全点検、危機管理マニュアル、避難訓練
11	学校管理下での事故や災害	学校事故発生状況、不審者侵入 突然死への対応 災害共済給付制度
12	学校給食と食育	学校給食法、食育基本法、栄養教諭
13	学校保健計画、学校安全計画	学校保健・安全計画の目的意義 作成手順・評価
14	学校保健組織活動	学校と地域社会との連携、学校保健委員会
15	まとめ	学修内容確認

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	学校保健Ⅲ		科目ナンバリング	H2DC22009	
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）				

《授業の概要》

学校では、全職員が協力して児童生徒の健康安全を推進していくことが求められている。特に保健体育教諭、養護教諭はその専門的な立場から協力して積極的に役割を担い活躍することが期待される。ここでは保健教育、安全教育の指導の場面を中心に、児童生徒の健康課題の解決に向けた模擬授業等の体験、演習をとおして実践力を身につけることをねらいとしている。

《授業の到達目標》

- 児童生徒の現代的な健康課題について説明することができる。
- 「教科保健」の学習と「保健指導」の相違点を説明することができる。
- 保健指導の指導案作成、模擬授業等をとおして役割を担う指導力、実践力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

課題レポートの内容評価・グループワークの発表内容（50%）  
 定期試験（50%）により、総合的に評価する。  
 レポートは評価コメントを加えて返却する。

《テキスト》

『学校保健ハンドブック』（ぎょうせい）小学校学習指導要領解説文部科学省体育偏、特別活動編（東洋館出版）中学校学習指導要領解説保健体育偏、特別活動編（東山書房、ぎょうせい）

《参考図書》

楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（文部科学省 国立教育政策研究所）  
 「生きる力」を育む小学校保健教育の手引き（文部科学省）  
 「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き（文部科学省）  
 学校保健の動向（平成28年度版）（日本学校保健会）

《授業時間外学習》

ワークシート、資料をこまめに整理して復習するとともに、児童生徒の健康課題に関心をもって情報を収集すること。

《備考》

「学校保健Ⅰ」、「学校保健Ⅱ」を履修していることが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	社会の変化と児童生徒の健康課題、ヘルスプロモーションと保健教育
2	教育課程と保健教育	学習指導要領、保健学習と保健指導 特別活動、学級活動（ホームルーム活動）、学校行事
3	歯、口の健康づくり	歯・口の健康実態、指導計画、指導体制、学校歯科医、実践事例
4	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（1）	喫煙・飲酒・薬物乱用実態、指導計画、指導体制
5	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（2）	指導実践例
6	学校における性教育、エイズ教育（1）	性の問題行動の実態、指導計画、指導体制
7	学校における性教育。エイズ教育（2）	指導実践例、ビデオ教材
8	ライフスタイルと保健指導（1）	生活習慣の実態、指導計画、指導体制
9	ライフスタイルと保健指導（2）	指導実践例
10	学習指導案の作成	学習指導案作成の意義、形式、学習指導要領との関連、教科学習との関連
11	学習指導案の作成	保健指導学習指導案作成の実際
12	保健指導模擬授業（1）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
13	保健指導模擬授業（2）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
14	保健指導模擬授業（3）	グループワーク、模擬授業、授業研究、評価
15	まとめ	学修内容、到達目標確認

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	健康行動論		科目ナンバリング	H2BC22011	
担当者氏名	加藤 和代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

健康行動理論のそれぞれの考え方や特徴、方法を理解し、地域や学校で、対象者が健康に良い行動をとる可能性を高める働きかけについて考える。

また事例を通してアセスメント、介入計画、実行、評価など健康教育へのモデルの応用を目指す。

《テキスト》

『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』  
松本千明著 医歯薬出版株式会社

《参考図書》

適宜参考図書を紹介する。

《授業の到達目標》

- 健康行動論、健康行動モデルの考え方、特徴を説明できる。
- 地域や学校で、対象者の健康に関する行動変容と維持に関して、筋道を通して考えることができる。

《授業時間外学習》

予習、課題に関するレポートは、必ず提出すること。

《成績評価の方法》

課題レポート、発表（40%）、定期試験（60%）で評価する。  
課題レポートは、評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の基本的な視点 授業の概要 学習動機づけ 評価等の説明
2	健康行動と健康教育	健康行動と研究の進歩、健康教育の研究・実践の重要性
3	健康信念モデル	(ヘルスベリーフ・モデル) 危機感に対する行動のプラス面とマイナス面 ケースへの応用
4	社会的認知理論	健康行動と個人・環境との相互作用 ケースへの応用
5	変化のステージモデル	(トランスセオリアルモデル) 5つのステージ ケースへの応用
6	プリシード・プロシードモデル	(健康行動理論を使って企画するためのモデル) モデルの概観 ケースへの応用
7	計画的行動理論	やる気に影響する3つの要素 ケースへの応用
8	自己効力感 ストレスコーピング	自己効力感と健康行動 ストレスコーピングと健康行動
9	健康行動変容プログラム (計画)	健康行動理論を用いて、自らのQOLをアセスメントし、健康行動変容プログラムを立案し実践する
10	性と健康行動 (1)	若者の性行動、望まない妊娠、性感染症 ピアカウンセリング
11	性と健康行動 (2)	課題のプレゼンテーションとディスカッション
12	運動と健康行動 (1)	体力低下、運動不足、肥満 運動実践指導
13	運動と健康行動 (2)	課題のプレゼンテーションとディスカッション
14	健康行動変容プログラム (実践発表)	健康行動変容プログラム実践発表
15	まとめ	到達目標の確認

科目名	健康統計学		科目ナンバリング	H2XC22012
担当者氏名	河野 稔			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-1 健康課題に対処するための方法を学び、現代的ツールに習熟する（専門的技術力） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）			

《授業の概要》

2年I期「健康統計の基礎」の学修成果をもとに、統計学の考え方や手法を身につけることを目指す。具体的には、基本統計量（平均値、分散、標準偏差など）や資料整理の方法、相関と回帰分析、確率分布、区間推定や仮説検定（カイ2乗検定、t検定、F検定など）まで、統計学全般について学ぶ。また、表計算ソフトを用いた演習にも取り組むことで、実践的な統計解析の手法についても学ぶ。

《授業の到達目標》

- 基本統計量を求めたりグラフを作成したりして、データ全体の特徴を把握できる。
- 統計的手法を用いて、標本から母集団の特徴を推測したり、複数の母集団の特徴を比較したりできる。
- 表計算ソフトなどを用いて、データの整理と分析ができる。
- 統計的に分析した結果を論文やレポートとして適切に表現できる。

《成績評価の方法》

小テストの結果（20%）、課題などの提出物（30%）、中間試験および定期試験の総合的な結果（50%）で評価する。なお、小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

石村貞夫(2006)『入門はじめての統計解析』東京書籍。

《参考図書》

- 石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2013)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2013』東京図書。
- 菅民郎(2013)『Excelで学ぶ統計解析入門 -Excel2013/2010対応版』オーム社。
- 高木廣文(2009)『ナースのための統計学 第2版』医学書院。

《授業時間外学習》

- 予習では、事前に教科書の授業範囲を読んでおくこと。また、グラフ作成や関数の利用など、表計算ソフトの操作や手順を確認しておくこと。
- 復習では、小テストや定期試験に向けて、定義や公式、手法を確認しておくこと。とくに、データの整理や手法を実際に行えるように練習しておくこと。

《備考》

授業での学習だけでなく、身の回りにある「データ」に関心を持ち、学習した成果を興味のある分野に生かそうという意欲を持って、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	統計の必要性、記述統計と推測統計
2	データの尺度、統計資料の整理	尺度、度数分布表、ヒストグラム
3	代表値と散布度(1)	平均値、中央値、最頻値など
4	代表値と散布度(2)	分散、標準偏差、範囲、変異係数など
5	相関と回帰分析(1)	相関係数、順位相関係数
6	相関と回帰分析(2)	回帰直線
7	確率、順列と組み合わせ	加法定理と乗法定理、順列、組み合わせ
8	中間試験	中間試験（ここまでのふり返り）
9	確率変数と確率分布	確率変数、確率分布（二項分布、正規分布、カイ二乗分布、F分布など）
10	区間推定(1)	母集団と標本、母平均の推定
11	区間推定(2)	母比率の推定、母相関係数の推定
12	仮説検定(1)	1つの母集団の統計値の検定（母平均、母比率、母相関係数）
13	仮説検定(2)	2つの母集団の統計値の検定（z検定、t検定など）
14	仮説検定(3)	クロス表の検定（適合度の検定、独立性の検定など）
15	仮説検定(4)／まとめ	その他のノンパラメトリックな検定／全体の学習のふり返り

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学 I	科目ナンバリング	H2XC22015
担当者氏名	細井 八千代		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

受講者は、医学的根拠をもって病気の経過や症状、訴えを知り、健康の回復や増進のために看護者は何ができるかを考える。実習においては基礎看護技術を習得し、よりよいケアにつながる看護知識、態度を学び養護教諭にとっての看護実践を理解する。

《テキスト》

指定しない。  
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

- ①『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
- ②『実践基礎看護学』中西監修（建帛社）
- ③『基礎看護技術 I』（医学書院） その他適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 看護の基礎技術を理解する。
- 基礎的な技術を習得し、実践できる。
- 心身の健康障害を理解し援助の方法を考える。

《授業時間外学習》

- ・実習室を利用して積極的に練習をする。
- ・解剖・生理学が基本となるので復習をしておく。
- ・復習をしっかり行い不明な点は質問をすることによって解決する。

《成績評価の方法》

最終試験(60%)、課題レポート(40%)提出期限厳守のこと  
(課題レポートは評価をして講義最終日に返します。)

《備考》

教員免許取得希望者の必須科目です。演習を随所に取り入れるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢が必要です。2コマ連続開講で11回+45分の授業となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について 基礎看護学の復習
2	病気の経過に伴う看護	急性疾患、慢性疾患、リハビリテーション、予後
3	治療・処置に伴う看護	安静療法、食事療法、薬物療法、運動療法、放射線療法、外科的治療
4	訴えや症状に対する理解と看護	必要な情報、訴えや症状に対する看護
5	基礎看護 1. 環境整備	看護技術とは、 ベッドの整備、ベッドの条件
6	2. 安楽な体位 3. 移送	基本的な体位、救急時の体位 車椅子、担架、松葉杖、ストレッチャーによる移送・移動
7	4. 衣服の着脱 5. 身体の清潔	衣服の着脱方法、衣類の環境 清潔の意義、身体各部の清潔、発汗の処置
8	6. 排泄の援助 (中間のまとめ)	安楽な体位、プライバシー保持を考えた排泄の援助・介助
9	7. 食生活の援助 8. 電法	食と生活、食事介助、 電法の目的、電法の種類と効果、電法の実施
10	9. 薬についての知識 10. 感染予防	与薬の目的、保健室の薬 消毒と滅菌、感染予防の基礎、手指洗浄
11	11. バイタル測定 12. 包帯法	バイタルサインの測定 創傷処置基本の理解 包帯の目的、包帯の種類、包帯の巻き方、三角巾の使い方
12	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知識を再確認し、成果を発表する。
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	看護学Ⅱ	科目ナンバリング	H2XC22016
担当者氏名	富安 俊子、東 久子、森田 富士子		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力）</li> <li>○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合）</li> <li>○ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力）</li> <li>◎ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> <li>○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）</li> </ul>		

《授業の概要》

人間の発達段階における特徴と各期において罹りやすい疾患の病態生理・治療・看護について学習する。  
各発達段階に応じた健康の保持・増進に必要な観察方法・予防法・看護技術の演習を行う。

《テキスト》

各回必要な使用を配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

1. 人間の発達段階（小児期・思春期・成人期・老年期）における特徴を理解することができる。
2. 各発達段階にある対象の健康状態を評価するための観察ができる。
3. 各発達段階の対象に健康の保持・増進を目的とした保健指導を行うことができる。

《授業時間外学習》

演習には事前準備をして臨む。

《成績評価の方法》

小児期（50％）、思春期周産期（25％）、成人期老年期（在宅）（25％）筆記試験およびレポートなどで総合的に判断する。  
小テストやレポートに対してコメントを付し返却する。  
全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

演習は、ポロシャツ・ジャージに更衣する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 女性のライフサイクル	授業内容・担当教員の紹介 女性のライフサイクル、リプロダクティブヘルツ/ライツ
2	母性看護の意義および看護発達段階看護	母性看護の実際、女性の発達段階の特徴と主な疾患・病態生理・治療・看護
3	周産期に必要な援助	妊娠・分娩・産褥・新生児の特徴、主な疾患・病態生理・治療・看護演習
4	周産期 まとめ	産婦人科での看護技術、フィジカルアセスメントの実際を演習の実際 まとめ 小テスト
5	養護教諭の執務と看護 小児看護の基礎知識	養護教諭の倫理、看護行為の基本、小児看護の基礎知識
6	乳幼児期の発達及び健康障害と看護	乳幼児期の発達の特徴、乳幼児の主な疾患と病態生理及び看護
7	学童期の発達及び健康障害と看護	学童期の発達の特徴、学童期の主な疾患と病態生理及び看護
8	思春期（中学高校生）の発達及び健康障害と看護	中学高校生期の発達の特徴、中学高校生期の主な疾患と病態生理及び看護
9	眼科疾患と看護、耳鼻咽喉科疾患と看護	眼に関する基礎知識及び疾患と看護、耳・鼻・咽頭・喉頭に関する基礎知識及び疾患と看護
10	皮膚疾患と看護、学校における救急看護	皮膚に関する基礎知識及び疾患及び疾患と看護、救急処置の意義と過程及び必要な技術
11	障がいのある児童生徒の理解と看護 小テスト	病虚弱の子どもの教育と看護、肢体不自由の子どもの教育と看護、発達障害の理解、まとめの小テスト
12	呼吸器疾患についての看護	呼吸器の形態機能を理解する。呼吸の観察及び、在宅酸素療法、吸引について演習する。
13	循環器疾患についての看護	循環器の形態機能を理解する。血圧測定及び、点滴の固定・抜針について演習する。
14	消化器疾患についての看護	消化器の形態機能を理解する。経管栄養、ストマ交換について演習する。
15	感染症、認知症、寝たきり等の看護 小テスト	衛生的な手洗い、認知症の病態・症状、床ずれについて理解する。まとめの小テストを行う。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	臨床看護実習		科目ナンバリング	H2XC22017	
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1-1 社会・文化・自然・健康を理解する（知識・理解）</li> <li>○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力）</li> <li>○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）</li> <li>◎ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力）</li> <li>○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）</li> </ul>				

《授業の概要》

看護学の最終段階として、これまで学んできた知識や技術を確認すると共に、臨床での人間関係を通して、養護教諭に必要な看護的専門性を確認します。受講者は、担当患者の看護ケアを通して看護過程の実際に触れることができます。医療的ケアをはじめ、現代的医療の実際や特別なケアにも触れます。人間を深く理解し、科学的な視点で必要なケアを考えるなど、臨床ならではの主体的学びが求められます。

《授業の到達目標》

- 実習目標や内容を明確にし、その成果の報告ができる。
- 対象者を理解し、心身の状況について、観察した内容を端的に報告することができる。
- 看護学の専門性を理解し、専門(学校看護)への応用について考えを述べる事ができる。
- 自ら習得しなければならない学習内容が分かり、実習計画を立てることができる。

《成績評価の方法》

事前指導から事後指導（実習報告会）まで、いっさいの欠席は原則として認めない。実習ノートの記録(40%)、指導者による実習評価(20%)、事前指導と事後指導の活動状況(40%)、100点満点で採点。評価は、すべての実習が終了した時点で行う。実習内容の講評はその都度おこなう。

《テキスト》

本学作成の『実習記録のノート』配布プリント類

《参考図書》

- 『最新看護学』中桐・天野・岡田 編著（東山書房）
- 『養護教諭のための看護学』藤井・山口・佐藤編（大修館書店）
- 『基礎看護技術Ⅰ』藤崎郁著、医学書院
- その他、適宜紹介する

《授業時間外学習》

実習に向けて、文献等での知識の確認と定着に努める。実習室等を積極的に活用し、基礎技術の習得に努める。実習期間中の生活時間帯を想定し、平素より、規則正しい生活習慣を確立する。

《備考》

事前指導から事後指導まですべてを含んで臨床実習と称する。出席状況・準備状況により実習の可否を学科内委員会が判断する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導1 オリエンテーション	臨床（臨地）実習の意義・目的および内容の概略について
2	事前指導2	実習の内容を確認し、各自の目標を決める。
3	事前指導3	実習中の注意事項、心構え等を確認する。
4	実習 1日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。オリエンテーション。 詳細は実習要項参照
5	実習 2日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
6	実習 3日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
7	実習 4日目	病院における実習計画に則り、臨地実習 詳細は実習要項参照
8	実習 5日目	病院における実習計画に則り、臨地実習。指導者を交えた、最終カンファレンス。 詳細は実習要項参照
9	実習 6日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
10	実習 7日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
11	実習 8日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
12	実習 9日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
13	実習 10日目	医療・保健・福祉関係施設における、臨地実習 詳細は実習要項参照
14	事後指導1	実習内容のまとめ、プレゼンテーションの準備
15	事後指導2	実習報告会において、それぞれの実習で習得した内容や課題について報告する。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	HTAL42004
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）  
課題の提出については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

テキストは使用しない。  
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房  
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。  
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論		科目ナンバリング	HTAL42006	
担当者氏名	古田 薫、廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程の編成と実施にあたっては、教育課程の構造と基礎的な編成原理、および基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解しておく必要がある。本授業は、これらの理解を深め、教育課程編成における教師の役割の重要性について考察することを目的とする。教育課程の理論的な枠組や主要論点を整理し、教育課程の実際と、新学習指導要領の要点、現代的課題についての理解を深める。

《授業の到達目標》

- 教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
- 学習指導要領の内容と法的性格について理解している。
- 学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
- 児童生徒の個人差のとらえ方と教育課程編成における個人差の取り扱いについて理解している。
- 学習指導案の書き方を理解し、目的に応じた指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
  - ②課題の提出と完成度 30%
  - ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之（編著）『はじめて学ぶ教育課程論（仮題）』ミネルヴァ書房、2016年  
『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年

《参考図書》

『高等学校学習指導要領』文部科学省、2008年  
田中耕治（編）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年

《授業時間外学習》

参考資料を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育課程とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性について理解を深める。
2	学校教育の目的・目標と 教育課程	・教育行政における教育課程の位置づけ ・教育課程の法的性格
3	学力観と学習指導要領の 変遷①	・学習指導要領の変遷とその背景（戦後～1970年代）
4	学力観と学習指導要領の 変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景（1980年代～現在）
5	教育課程の管理と運営	・学校における教育課程の管理・運営の実際
6	カリキュラムの構造と類 型	・カリキュラムの歴史、さまざまなカリキュラムの類型とその特徴
7	教育課程における個人差 の取り扱い	・個人差とは、個に応じた指導とは ・個人差と教育課程
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。 ・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。
9	学習指導案の書き方	・指導案の構成と作成手順 ・作成上の留意点
10	小学校教育課程の構成	・小学校教育課程における教授内容や課題を具体的に探究する。 ・総合的な学習の時間について教育内容の構成と実施について考察する。
11	中学校教育課程の編成	・中学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
12	高等学校教育課程の編成	・高等学校教育課程の特徴や教育内容を知り、現在の課題について考察する。
13	教科書制度	・教育課程における教科書の位置づけ ・教科書の無償措置および検定制度
14	諸外国の教育課程	・各国の教育課程に関する制度と実情
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	保健・保健体育科教育法Ⅰ（保健教育内容研究）		科目ナンバリング	HTHH42001	
担当者氏名	松本 健治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

健康問題は大きく変貌し、わが国は世界最長寿国になった。このような健康をめぐる今日的課題とその背景にある各種の環境因についての保健教育内容について正確な知識が身につくよう論述する。

《テキスト》

文部科学省：中学校学習指導要領解説保健体育編 高等学校学習指導要領解説保健体育編 大修館書店：中学校用保健体育教科書

《参考図書》

適宜、補足資料を配布する。

《授業の到達目標》

「保健」の指導を進める過程で、健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育成することが重要であることが理解できる。

《授業時間外学習》

学習内容の理解度を深めるため、復習と事前配布の講義資料で予習しておくことが肝要です。

《成績評価の方法》

期末試験 80%、課題・小テスト等 10%、  
受講態度・授業への参加度 10%  
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	新しい時代と健康教育	オリエンテーション、健康教育の考え方
2	保健科教育の意義と役割	学校保健のなかでの保健学習の意義
3	保健科教育の意義と役割	教育課程のなかでの保健科教育の位置と特質、生涯保健と保健科教育
4	保健科教育の目標と内容	保健科教育の指導理念
5	保健科教育の目標と内容	保健科教育の目標設定を規定する諸条件
6	保健科教育の目標と内容	保健科教育の目標と内容の変遷、内容の系統性と他教科ならびに教科外活動との関連
7	機能発達と心の健康	身体機能の発達、生殖にかかわる機能の成熟、精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康
8	健康と環境	身体環境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理、生活に伴う廃棄物の衛生的管理
9	傷害の防止	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当
10	健康な生活と疾病の予防	健康の成り立ちと疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、薬物乱用と健康、感染症の予防、保健・医療機関や医薬品
11	現代社会と健康	健康の考え方、健康の保持増進と疾病の予防、精神の健康、交通安全、応急手当
12	生涯を通じる健康	生涯の各段階における健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や対策
13	社会生活と健康	環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康
14	性教育	理念、わが国における性教育のあゆみと今日の考え方、学校教育のなかでの性教育
15	まとめ	これからの健康教育

《教職に関する科目》

科目名	保健科教育法 I (保健科教育教材研究)		科目ナンバリング	HTHH42003	
担当者氏名	松本 健治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		履修カルテ参照			

《授業の概要》

生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う上で中心的な役割を担っている保健教育の指導方法、授業研究および教材等について正確な知識が身につくよう論述する。

《テキスト》

文部科学省：中学校学習指導要領解説保健体育編 高等学校学習指導要領解説保健体育編 大修館書店：中学校用保健体育教科書

《参考図書》

適宜、補足資料を配布します。

《授業の到達目標》

保健指導では、HR活動や学校行事などの特別活動及び総合的な学習の時間などにおいて、「保健」で身に付けた知識やスキルを生かして課題解決などに取り組むことができるようにする必要があります。また養護教諭が、教材についても常に研究する必要があることも理解できる。

《授業時間外学習》

学習内容の理解度を深めるため、復習と事前配布の講義資料で予習しておくことが肝要です。

《成績評価の方法》

期末試験 80%、課題・小テスト等 10%、  
受講態度・授業への参加度 10%  
わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	オリエンテーション、健康教育の基本知識、教授技術
2	指導計画を規定する因子	指導計画のとらえ方、保健科教育の指導計画の意義、保健科教育の指導計画を規定する因子
3	指導計画立案の手順と観点	年間指導計画、単元計画
4	教材研究と指導案づくり	保健科教材研究の視点と方法、指導案づくりとその実例
5	保健科教育の指導方法 (1)	保健科教育の構成、授業の基本構成、授業展開について、授業形態について
6	保健科教育の指導方法 (2)	保健科教育と教授一学習過程、保健科の教授一学習過程の歴史的变化、実感の伴う教授一学習過程
7	保健科教育の指導方法 (3)	展開技術、授業における具体性について、発問のあり方、思考を促す資料の提示、視聴覚教具の活用、観察・実験実習・調査活動
8	保健科教育の指導方法 (4)	教科書による授業展開、教科書の性格と特性、教科書教材にみられる特徴、教科書による保健学習の留意点、教科書とよい授業実践
9	保健科教育の評価 (1)	評価の意義と役割、評価の主体と意義、評価場面と意義、カリキュラム評価、評価の意義と役割、保健科教育の評価の困難点
10	保健科教育の評価 (2)	評価の対象、教育目標、教育計画、授業準備、授業過程、教育（学習）環境、教育関係者、教育成果の評価、評価過程の評価
11	保健科教育の評価 (3)	評価の実態、評価の過程、評価の方法、記録・伝達、評価の実態、評価をめぐる今後の課題
12	保健科教育の授業研究 (1)	授業研究の動向、授業分析の基盤と方法、授業研究の歴史、授業研究の対象、授業研究の手順
13	保健科教育の授業研究 (2)	保健科教育における授業研究、現状、行動および態度の変容を評価する授業分析、授業研究の体制づくり
14	HQC、発育チャートの活用	HQCを利用した健康づくり、健康診断票の活用
15	まとめ	知識と行動の乖離、行動変容のガイド

《教職に関する科目》

科目名	保健体育科教育法 I (保健体育科教育研究)		科目ナンバリング	HTHH42005	
担当者氏名	後藤 幸弘				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、学習指導要領を深く理解するとともに保健体育授業担当者としてふさわしい、基本的な資質や能力を身につけることを目標とする。換言すれば、スポーツは楽しければそれでよいのだという「一種の思考停止・判断停止」に支配されている状態から脱却し、「身体運動文化」の奥深さに触れ、それを教育に生かせるようになることを目標とする。

《テキスト》

後藤幸弘編著「内容学と架橋する保健体育科教育論」晃洋書房  
 文部科学省「中学校学習指導要領解説(保健体育編)」  
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説(保健体育編)」

《参考図書》

宇土正彦(監修)「学校体育授業事典」大修館書店  
 日本体育学会(監修)「最新スポーツ科学事典」平凡社

《授業の到達目標》

保健体育科成立の文化基盤である「身体運動文化」への興味・関心、認識・理解を深め、専門知識の習得及び中・高等学校保健体育科の授業担当者として求められる資質や実践的能力を身に付ける。具体的には、教育実習に向けて指導案が書けるようになることを目標とする。

《授業時間外学習》

・ノートをまとめ復習する。また、次時の講義内容に当たるテキストの章を読んでおく。

《成績評価の方法》

・出席も重視します。  
 ・授業における討議への積極的参加(20%)、レポート(20%)及び試験(持ち込み不可)(60%)を総合的に評価する。  
 わからないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

・質問・連絡等があればメールでも受け付けます。  
 (ygoto@gaia.eonet.ne.jp)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・保健体育とは(払拭して欲しい5つの誤解)
2	教科の成立基盤と授業の構造	・保健体育科の成立基盤と授業の構造(含む、教師論)
3	保健体育授業の目標	・保健体育授業の目標と学力について
4	学習指導要領	・学習指導要領について
5	運動領域	・運動領域の編成と教育内容の構成について(欲求・発達・運動特性から) ・競争について
6	教育内容 1	・教育内容の指定の方法 I (陸上競技の短距離走を例に、速度曲線から)運動課題から学習課題を導出すれば教育内容が見えてくる
7	教育内容 2	・教育内容の指定の方法 II (リレーを例に)ゴーマーク位置の発見の方法
8	普遍的教育内容	・技術、ルール、戦術、マナーの関係について
9	ルール	・技術・ルールについて(レポート:技術・ルールの変遷について)
10	水泳の学習指導	・水泳の科学的基礎の理解(浮く、呼吸、推力の創出)
11	学習指導	・各種の学習指導法について
12	指導案の作成	・学習指導案作成の留意点(レポート:指導案の作成)
13	作成した指導案の検討	・運動が上手にできる子を育てる要件を中心に
14	教師行動	・教師の4大教授行動、望ましい心情をそだてる4条件
15	まとめと試験問題の検討	・作成した試験問題の検討を通して講義のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	特別活動論	科目ナンバリング	HTAL42008
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

学習指導要領の中で特別活動の枠組みと内容を十分に理解する。また実践力を養成するために、基礎的・基本的な知識とそれを活用できる力の習得を目的とする。①わが国の特別活動の歴史と変遷について ②特別活動の意義と目的について ③学習指導要領における特別活動の位置づけについて ④他の教育領域との関わりについて等を中心に授業展開をする。

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、我が国の特別活動の変遷を歴史的に考慮して特別活動が小学校・中学校・高等学校においてどのように営まれているか、などを基本的に理解する。

《成績評価の方法》

到達目標に関わる定期試験(60%)、授業態度(20%)、ミニレポート(20%)により評価する。

小テストやレポートにコメントを付して返却する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい特別活動-理論と実践』 (ISBN978-4-623-07258-3) ミネルヴァ書房 2015年

《参考図書》

文部科学省 『学習指導要領 小学校 中学校 高等学校』 2012年、『教育人間学的視座から見た「特別活動と人間形成」の研究』大学教育出版 2009年、広岡義之編著 『新しい特別活動論』創言社 2009年

《授業時間外学習》

受講前に、教材の指定された部分をよく読んでおくこと。講義後のノートの整理に十分に時間をかけること。理解が十分でなかった部分は、自分で学習する、それでも理解が十分でないところは、次回の授業にて講師に質問する準備をする。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	学習指導要領、テキスト、副教材などの紹介と受講姿勢のあり方の指導と特別活動全体について概略的な説明をする。この授業で到達すべき目標について考える。
2	特別活動と学習指導要領の変遷。特活への期待	戦後特別活動の実施の経緯と発展を学習指導要領の変遷の中で確かめ、特別活動の本質を探る。特別活動の充実が学校生活の満足度に関係することを理解する。
3	特別活動の目標	学習指導要領の特別活動の目標を紹介し、解説・分析し理解する。
4	特別活動と学習指導要領	特別活動の「意義」を学習指導要領の内容と関わって明確にする。
5	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅰ	特別活動における学級活動・ホームルームの位置づけ、内容を説明し、その特徴を明確にする。
6	特別活動の内容(学級活動・ホームルーム)Ⅱ	学級活動・ホームルームの学級内の組織づくりや仕事の分担処理の方法を理解する。
7	児童会・生徒会活動と学習指導要領	児童会・生徒会活動の内容を解明し、その特徴を特別活動の目標達成に生かすことを理解する。
8	学校行事(儀式的行事)について	儀式的行事の内容と意義を理解し、これらの行事の課題について考える。
9	文化的行事について	文化的行事の内容と特徴を理解し、教科指導と特別活動との関連を明確にする。
10	健康安全・体育的行事について	健康安全・体育的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
11	旅行・集団宿泊的行事について	旅行・集団宿泊的行事の内容を理解し、これらの行事の課題について考える。
12	勤労生産・奉仕的行事について	勤労生産・奉仕的行事の内容と特徴を理解し、これらの行事の課題について考える。
13	特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い	指導計画作成や内容の取り扱いについて理解し、入学式や卒業式などにおける国旗および国歌の取り扱いを明確にする。
14	特別活動学習指導案作成	学級の児童・生徒の様子から、題材を設定し学習指導案を作成し、本時のねらいを達成する授業展開を考える。
15	講義全体のまとめをする	特別活動はいつの時代にも、常に学校生活の基礎として重要な役割を果たしていることや特別活動の充実が学校生活の満足度に深く関わっている等を振り返る。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	HTAL42009
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本講義では、学習者が能動的に参加するような授業を展開するための基本的な方法・技術を学ぶ。特に、学習者の思考を触発し、教科内容の本質に迫らせる問いや課題を設定する方法と、その問い・課題をめぐる学習者の考え・意見の交流を支援する方法、および、そのような学習を評価する方法が軸となる。

《テキスト》

特に指定しない。必要に応じてワークシートを配布する。

《参考図書》

吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する』東信書房、2015年。

《授業の到達目標》

①授業が、教科内容伝達の場合だけでなく、学習者の思考と試行錯誤の場合であることが理解できる。②そのような授業の展開のためには的確な方法・技術が必要であることが理解できる。③ペーパーテストのみに依存しない多様な観点での学習者評価の意義と方法が理解できる。④以上を踏まえた学習指導案を作成できる。⑤開発した学習指導案につき、相互に適切に評価・批評し合うことができる。

《授業時間外学習》

集中講義は4日を予定しているが、2日目の最後に4～5名のグループを編成し、各グループで一つの学習指導案を開発することを課題とする。このため、授業時間外に各グループで、またはグループ内個人で分担して教材研究、授業の流れの設計、評価方法の考察などを行う。授業4日目には、開発した授業案につき各グループのプレゼンテーションを行う。

《成績評価の方法》

評価方法は、①各授業最後に実施する小レポート、②グループ作成の学習指導案、③最終レポートによって行う。評価割合は①20%、②30%、③50%。小レポートには、質問を記載することもでき、次時に回答を行う。また、各グループの学習指導案プレゼンテーションの後に講評を行う。

《備考》

講義3、4日目は特に、学習指導案作成のグループワークを中心としたアクティブ・ラーニング形式となるため、受講生各自の積極的な参加を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	受講者各自の小中高段階での授業体験を交流し、各自の現在の授業観・学習観を確認する。
2	授業づくりの基本的な考え方	授業＝話を聞く場との基本的授業観の問題性を確認し、授業を学習者の思考と試行錯誤の場として再認識する。
3	授業目標の定立	授業目標の定立のためには、①教科内容に関する知識と理解形成の観点と、②それをめぐる学習者の思考の技能や知識活用の技能の形成、の2観点が必要である。
4	学習を触発する問い・課題の構成	授業づくりの核となるのは、教科内容の本質に迫るとともに、学習者の解明意欲をかきたて、結果として学習者各自の意見を持たせる問いや課題の構成である。
5	学習を多面的に見取る評価	ペーパーテストは知識、理解の修得を事後的に評価するのに適するが、授業内における学習者の思考の展開や課題解決行動の評価を行うには、別の評価観点と方法を要する。
6	授業事例の視聴1	「授業の中で学習者がめざましく成長する」ことを実感するため、優れた授業の事例を視聴する。
7	授業事例の視聴2	上記視聴を継続する。
8	視聴した授業の考察とその交流	視聴した授業に関して、小グループごとに、教師の方法・技術の観点から分析を行い、その考察結果を発表・交流する。
9	学習指導案の開発1	本講義これまでの内容を踏まえ、小グループごとに学習指導案の作成に着手する。本時は、開発する授業について学校種、教科、単元を相談の上定める。
10	学習指導案の開発2	本時は、グループごとに、開発する授業の目標、核となる教材の構成、それをめぐる問い・課題の開発、および、学習者の思考内容を交流させる方法の定立を行う。
11	学習指導案の開発3	本時は、グループごとに、開発した授業における学習者の評価基準と評価方法を定立する。
12	学習指導案プレゼンテーション1	開発した学習指導案の発表を行う。授業目標、核となる教材の教科学習上の意義、学習者の予想される思考内容、それを交流させる方法、および学習評価の方法を発表する。
13	学習指導案プレゼンテーション2	上記発表活動を継続する。
14	学習指導案プレゼンテーション3	各グループの発表後、それぞれの指導案につき、評価点と批評点を出し合い、相互評価を行う。
15	総合考察・まとめ	参加者は、受講開始時の授業観を振り返り、本講義によって得た学習内容を整理、報告し、それをめぐる交流を行う。その後、授業を総合的に振り返り、まとめを行う。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	HTAL42010
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%), レポート(40%), その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

授業の最後に提出する小レポートにコメントを記して、次の授業時に返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。